

「まち」に住み、「まち」で働き、「まち」で食う

～地域の中で小さな経済循環を生み出す～

遠藤 康平 (城北支部)

この枠は、書評コーナーと言うことで頂戴しております。ですが、この記事をお読みの先生方のほとんどが私のことをご存知ではなかろうということで、最初に自己紹介をさせていただきます。

今年度より、城北支部広報部で奉職することとなりました、遠藤康平と申します。

平成 27 年 4 月に診断士として登録し、その年末頃に会社を退職いたしました。前職は IT エンジニアであり、その経歴は 10 年余り。業務内容は多岐にわたり特徴の無いところが特徴と言えます。

私のことをご存知の先生方から、時折「今は IT の仕事をしているの？」と聞かれることがあります。基本的には、そのようなお仕事は承っておりません。

それでは、私が一体何をしているのか。

それは、市民活動をバックアップすることにより、新しい経済循環を生み出す仕組み作りです。

これに関連する日頃の私の活動内容は、だいたい以下のとおりです。

創業セミナーのお手伝い。自主勉強会の開催。市民活動家たちとの交流。

これらはすべて、本稿の掲題とした「まちに住み、まちで働き、まちで食う」を実現するという目的に特化しています。

ごく少数の、私のことをご存知の先生方からは、「えんちゃん（私のニックネームです）はいつも活発に活動しているよね」とお褒めいただきます。

いいえ。私は活動をむしろ徹底的に絞り込んでいるのです。むしろ怠け者です。

「まちに住み、まちで働き、まちで食う」とは、地域の中で経済循環を起こすことを意味します。まちの中で経済循環が完結する。つまり、まちの中で雇用が創出され、また消費者の需要が満たされるようになれば、結果としてその地域に税収が入り、地域の住環境はさらに向上してゆく。

人口動態という点でも、城北 5 区の多くの地域で、主に子育て～働き盛り世代の人口流入傾向が見て取れます。私は、今こそこの「まちに住み、まちで働き、まちで食う」経済循環を生み出すチャンスだと考えています。

だからこそ、市民活動家たちが発見した地域の課題を、ビジネスの手法で解決する「(小さな) 社会的起業」に、大きな可能性があると考えています。創業支援は、市民活動家たちの活動自体のサステナビリティを高める一手段という位置づけです。

たとえば地方では、地元自治体が死に物狂いで外地の「ものづくり」企業の生産拠点誘致に取り組んでいます。ですが、製造業ではいまや自動化が進展しており、工場の誘致は思ったほど雇用創出効果がないということは先生方もご存知のとおりです。

地域の課題は地域で解決する。それも、小規模な取組の積み重ねによって。

そのような事例を多数収録しているのが、今回紹介する、00（ゼロ・ゼロ）（著）、石原薫（翻訳）『シビックエコノミー 世界に学ぶ小さな経済の作り方』（フィルムアート社）です。（<https://www.amazon.co.jp/dp/4845914298>）。

この本ではシビックエコノミーについて『従来の明確に区別された市民社会、市場、政府の各部門からの革新的な方法を融合させる人、ベンチャー、行動から成る経済』と定義しています（同書、p.14）。

一方、地域の現状については『多くの地域が公的財源に大きく依存しています。（中略）リスクを回避した決まりきった再生アプローチによって、地域は徐々に均一化しています。（中略）ブームの後に置き去りにされた地域はゴーストタウン化しています。それと同時に、新たな大規模開発と地域の個性の喪失によって「クローンタウン」があちこちに出現しています』（同書、p.15）。同書は先進事例としてイギリスの取組を紹介していますが、その背景にある事情は我が国と共通する部分も多いようです。

それに対し、「シビックエコノミー」とは『応急措置や新しい大がかりな法律の制定、ビジネスパークなどの物理的インフラへの莫大な資本投資プログラムではなく、これまでとは違う考え方ややり方を埋め込んでいくということです。前向きで、楽観的でコラボラティブな文化、そこにシビックエコノミーが現れ、育つための最も重要なプラットフォームなのです。』（同書、p.191）。

このようなプラットフォームを育てるため、まちづくりの担い手に期待される役割について説明します。

まちづくりの担い手は、市民たちが持つニーズや意欲、能力やスキルを掛け合わせる、すなわち「マッチング」能力を期待されています。

その中で、特に私が重視しているのは、「ニーズを抱えてはいるが、それを実現する手段がわからない」という人たちです。そこで、私は創業支援を通じてその方が自ら活動の主体となる方法や、すでにそうした取組を始めているが、人手不足で困っているという方をご紹介しますといったことに取り組んでいます。

このような前提から、私自身は「すでに成功した社会起業家」に会いに行くということを重視していません（研究対象として無視しているわけではありません）。

また、有名な「社会起業家」と名刺交換し、写真を一緒に撮るという行為に意義を見いだしてもいません。知り合いの数の多さを自慢して、周囲にマウンティングするようでは、そもそも市民活動の阻害要因にしかならないこと。「既に成功した社会起業家」は忙しいため、まちづくりの支援者たらんとする自分がなすべき「マッチング」のカウンターパートとなり得ないこと、などが挙げられます。

さて、同書では全部で25の事例を取り上げています。

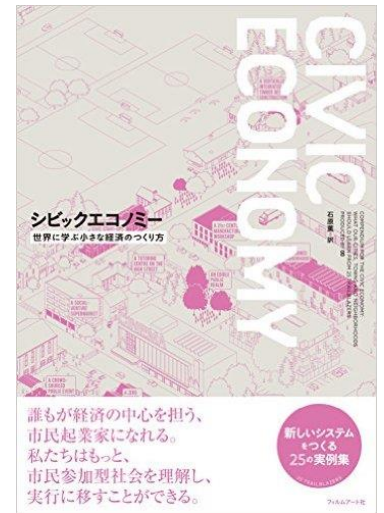
その中で、本稿ではとある田舎で、閉店したパブをリノベーションした事例を取り上げます。

その村で唯一だったパブが失われ、村人たちが集う場所が失われました。そこで村人たちは、このパブを買い取り、市民農園、図書館、食料品販売所などを併設した市民センターへと改装したのです。

その社会的インパクトは、『地元の食材や商品を調達するため、地元取引を誘発し、村民が隣町に買い物に行く回数が減ったため、地元経済の強化と環境配慮に貢献している』（同書、p66）とあります。

「まちに住み、まちで働き、まちで食う」を実践すれば、地域内に雇用が生まれ、排気ガスなどの環境負荷が軽減される。さらには、地元で税収が入るようになり、住環境が改善する好循環が生まれます。

この「シビックエコノミー」の考え方については、今後城北支部の「企業経営研究会」で発表予定となって



います（今秋予定）。

もしお時間のご都合がよろしければ、同研究会へのご出席をよろしく申し上げます。

## 城北プロコン塾より ～「塾生のひとり言」～

城北支部 坂田 卓也

(sakataku@beige.plala.or.jp)



現在、城北プロコン塾4期で勉強中の城北支部1年生 坂田 卓也です。皆さん、よろしく申し上げます。診断士の資格取得を機会に改めて自分の経歴、スキルの棚卸を行い、目指す姿を明確にいたしました。

私の本業は、環境系モノづくりベンチャー企業の生産技術の技術者です。生産設備の新規開発、生産ラインや工場の設計、既存工場の生産性向上改善等を専門に行い、技術士（機械部門）の資格も取得しております。また、本業の傍ら、ファイナンシャルプランナー（以下、FP）の資格も取得し、日本FP協会東京支部の幹事として、ライフプランのセミナーや個人相談などFPの活動も精力的に行っております。そのため、私の目指す姿は中小企業診断士、技術士、FPの知識と経験を活かし「中小企業経営者に経営、技術、ライフプランをトータルでサポートする」診断士を目指したいと考えています。

ただし、最近の技術動向やFP業界も甘いモノではなく、競争は厳しい状況にあります。ただその中でも光る技術やトピックスは出てきており、FP業界では、Fintech (Finance + Technology) が注目を集め、個人の資産運用や家計管理の仕方に大きな変革を起こしています。また技術分野でも国の生産性向上の掛け声とともに、スマートモノづくり応援隊などの政策が動き出し、IoT、AI、ビックデータやロボット活用など、多くの新技術の到来が今後の企業経営に革新を起こさせる予感があります。私としては、これらの技術、知識を敏感にとらえ、素早くキャッチアップして、中小企業や経営者個人に如何に適用していくかを考え、そしてサポートする役割を担っていきたいと考えています。

## あとがき（編集後記）

リオオリンピックも閉幕し、こここのところ紙面・ニュースはパラリンピックで盛りあがっております。リオオリンピックの閉幕式では、東京オリンピックに向けたパフォーマンスが行われ、阿部総理がマリオのコスチュームで現れて話題を集めました。先日のappleのiPhone7発表でもサプライズでマリオの生みの親である任天堂の宮本茂氏が登場し、iOS向けの新作「スーパーマリオラン」をアピールして注目を浴びておりました。



今年はポケモンGoにマリオと任天堂の話題が絶えない年になりそうです。秋にはソニーのプレステVR発売もあるので、そこに合わせて任天堂が何かやってくるのでは！？と勝手な妄想をしている今日この頃です。

## 【本誌に関する皆さまのご意見、ご要望をお待ちしております】

### ①皆さまがお持ちの“ネタ”を提供してください

- ・研究会・区会の活動を紹介したい、または、ご自身のセミナーを紹介したい。⇒広報部員が潜入します
- ・ご自身の特技を紹介したい。支部内の方と交流したい。⇒「今月の城北人」のコーナーで紹介します
- ・診断士としてのノウハウを紹介したいなど ⇒特集記事化します。

### ②皆さまが知りたいことを教えて下さい

- ・企業内診断士の活動状況が知りたい。
- ・独立するには、どうしたらいいかを知りたい。

⇒各種 特集を組んで記事を作成します。

### ③読者としての（批判も含め）感想をお聞かせください

・批判的な内容もお願いします。今後の改善に活用させていただきます。

### ④本誌編集スタッフ募集中

・「隙間時間にちょっと」「アイデアを出すだけ」でも構いません。

問い合わせ先 城北支部広報部： [johoku.kouhou@gmail.com](mailto:johoku.kouhou@gmail.com)まで よろしくお願ひ致します。

**JOUHOKU SHINDAN 誌**

2016年9月15日発行

発行者：城北支部長 清水一都

編集者：城北支部 広報部